

「珍渦虫」発生過程の一部観察

動物の進化の過程解明へ

主にヨーロッパの海底に生息する「珍渦虫」という生物の発生過程の一部を中野裕昭助教（生環系・下田臨海実験センター）らの研究チームが世界で初めて観

察、2月に発表した。珍渦虫は体長1〜3センチで、脳や育嚢、肛門などがない単純な構造だが、これまで生物学的な分類は不明だった。しかし、体の構造が単純な



単純な構造を持つ珍渦虫（体長は1〜3センチ）

ことから、多くの動物に共通する祖先の形跡を残している可能性があるという指摘されていた。

今回の研究で中野助教らは、珍渦虫の発生過程を観察すると共に、幼生の構造も非常に単純であることを発見。動物の進化過程の解明につながると期待される。

中野助教らの研究チームは、2007年冬に、スウェーデン西海岸で珍渦虫を採集し飼育。その後、飼育槽に幼生9匹がいるのを発見した。成体が産んだ卵から孵化したと見られるが、幼生には口や目などがなく、楕円形で大きさは0.2ミリの程度。体表に生えている繊毛で回転しながら泳いでいた。しかし5日間で、

筋肉を使い、身体を伸縮させるなど成体と同じような行動を示した。

この珍渦虫の幼生はクラ

第2回つくば科学研究コンテスト

高校生らが研究発表

柳沢教授の講演も

「第2回つくば科学研究コンテスト兼茨城県高校生科学研究発表会」が、3月20日、大学会館講堂で行われた。本学では、平成23年度から生物・地球・物理・化学の各学類の教員らが、科学の研究を行う小・中・高生を支援するプログラム「スーパーサイエンスリーグ」を実施。コンテストには、高校生ら約500人が訪れ、同リーグ所属の児童、生徒が発表を行った。

午前中は、参加者が自らの研究内容を書いたポス

ターと共に成果を発表。また、午後には、柳沢正史教授（国際統合睡眠医科学研究機構）が「睡眠・覚醒の謎に挑む」というテーマで講演した。同教授は、自身の研究内容に触れながら「科学とは仮説を立てて研究すること。これこそが王道だ」と語り、質疑応答では「授業中に眠くなるのだから、眠くならないためにはどうすれば良いのか」「寝すぎて眠い、ということはある得るのか」という小・中・高生らしい質問が出た。

スーパーサイエンスリーグは、さまざまな科学コンテストで受賞するなど高い評価を受けている。

閉会式では木越英夫化学類長（数物系）が「理科離れの時代と言われるが、多くの研究発表があり、うれしい。このまま学会で発表しても良いレベルのものもある」と称賛。発表を行った中学2年生の男子生徒は「たくさんの人に自分の研究を知ってもらえて楽しかった」と話していた。また、会場を訪れた水戸市の高校1年生の女子生徒は「この研究もすごかった。まだ1年生なので発表はできないが、来年は自分も発表したい」と話した。

できるのかといった、珍渦虫の研究を通して、動物の進化過程の解明に近づきたい」と抱負を語った。